

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 10 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503692		
法人名	有限会社 どんぐり村		
事業所名	グループホーム どんぐり村		
所在地	〒729-0111 広島県福山市今津町1456-1 (電話) 084-933-6138		
自己評価作成日	令和元年8月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503692-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	令和 元年 10 月 10 日 (木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域との絆を大切に「ゆっくり・楽しく・自分らしく」をモットーに、ひとりひとりに合わせたケアを行い、ご本人・ご家族様とのコミュニケーションを大切にしながら笑顔で一緒に過ごせるよう心掛けています。
また、ご本人、ご家族様のご希望があれば、ターミナルケアも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームどんぐり村は住宅街に位置していて、事業所前には河川敷があり、四季折々の草花を見ることができ、散歩コースになっている。又、利用者の特性に合わせた対応として、個々の認知症状・性格・趣向の理解や、生活歴・職歴等の把握を行っている。利用者お一人おひとりが、その人らしく過ごす事が出来る様に、アセスメントにおいて方向性を決め、コミュニケーションのとり方に配慮している。又、利用者同士の連帯感や協働意識も必要と認識しながら支援にあたっている。食後は皿拭き、午後には洗濯物をたたむ等、利用者一人一人のペースで家事を受け持っている等、家庭的な生活環境が提供されている。利用者の言葉に加え、表情や動きから何をしたいのかを察知し、出来るだけ利用者が主体的に出来る支援を心がけている。利用者がホームの中で役割や存在感を持って安心して生活し、出来る事を維持・継続出来る様に支援している。

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議で、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、一人ひとりにあった具体的なケアについて意見の統一を図っている。	社長の「地域で困っている人を助けてあげたい」という思いから事業を立ち上げており、事業所理念「ゆつくり・楽しく・自分らしく」を玄関口に掲示し、出勤時に目を通してしている。又、職員間での申し送り時やミーティング時等の時間に理念について話し合い、検討し共有・実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域住民の一人として町内の行事に参加させてもらっている。河川敷の清掃(年3回) ふれあいサロンの参加(週1回)また、散歩時等、挨拶や話等したりして交流している。	河川敷の清掃やふれあいサロン(長波カフェ)に週1回のペースで参加し、地域の方々と交流している。地域でのどんど祭りに見に行ったり、秋祭りの神輿・亥の子祭りが訪れたり、近くのお寺に散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わし楽しんでいる。ボランティアで、エレクトーンの演奏と歌・読み聞かせ・カラオケ等で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れを行っていましたが、学校がやめられたため、現在は受け入れを行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加を呼びかけ、日程調整をしながら運営推進会議を行い、当施設の現況をお伝えし、意見交流しています。	会議は年6回開催し、地域包括支援センター職員・民生委員・地域代表者・社長・管理者・職員が参加し、利用者の状況や活動報告、事業予定、研修報告、事故報告、外部評価結果報告等を行い、毎月テーマを決めて話し合いをしている。その時々々のテーマについて参加者の方からの意見を頂き、会議で検討し、サービス向上の取組みに活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	お話しする機会があれば、その都度当施設の現状をお伝えしています。また、困った時や相談したい時など、市役所介護保険課へ行っています。	市担当者とは、書類申請時に直接出向いた時、電話等で相談し、情報交換や申請内容、手続き、運営上の疑義、市のサービスについて相談し助言を得ている等、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で情報交換や事例相談を行い連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する内部研修を年2回行っています。また、新たに職員が入った場合にも同様の研修を行っています。職員会議で、気づかないうちに言葉を遮ったり、気持ちを抑えつけたケアをしていないか確認しています。身体的拘束等の適正化のための指針を制定し、各職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	マニュアルがあり、身体拘束等の適正化を検討する研修・会議を年4回開催して、支援方法等の改善に繋げている。玄関の施錠は検討の上しているが、利用者が外出したい時には、職員と一緒に出かける等工夫している。職員は研修やミーティングを通して、自覚のない身体拘束も起こらないよう努め、職員同士で注意し合っている。スピーチロックや不適切なケアに気付いた時には、管理者が指導すると共に職員間でもお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今現在、施設内での虐待はありません。週1回、虐待についての会議を持っています。世の中のニュースなどを見て、職員同士、日々のケアの再確認を行っています。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見制度を利用する予定の方の入所が決まっており、必要な知識を身につけて活用できるよう取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時、解約または改定時、利用者、その家族の方と十分な話し合いを行い、理解と了解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人、または家族から要望があれば、その都度可能な限り対応しています。	運営推進会議や面会時・電話・手紙等で、意見や要望を聞いたり、玄関口に苦情受付箱を設置する等、気軽に意見が引き出せるように工夫している。管理者や職員は、毎月の事業所だより「どんぐり村便り」に合わせて、利用者の日常の様子を伝え、来訪時には声をかける等して、家族が意見を言いやすい雰囲気を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議での意見の収集や日頃からコミュニケーションを図るよう掛けており、運営に反映するよう取り組んでいる。	社長・管理者は、普段や職員会議やカンファレンス時、毎夕のミーティング時、朝礼時に職員の意見や提案を聞いている。出された意見は検討し、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況等により昇給、ボーナスの支給がある。また、向上心をもって働けるよう介護福祉士手当等定めている。職員の疲労やストレス要因について気を配り、気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要と思われる研修には出来るだけ参加できるよう計画し、調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流会には出来るだけ参加し、情報交換を通じてサービスの向上に努めています。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談で生活状態を把握するよう努めたり、ご本人との十分な話し合いにより要望を聞いたり不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族の苦労やサービス利用状況、経緯などについてゆっくり話を聞き、グループホームとしてどのような対応ができるか家族と事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始前に職員が会いに行ったり、サービスの利用開始時、ご本人が出来ることと出来ないことを見極め、他のサービスが必要であれば対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る作業は職員と一緒にやって頂き、時には入居者から知恵を借りながらやっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の日頃の状態を報告、相談するとともに、来訪時はご本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。何時でも家族へTELできる体制が整っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの関係が持続できるようサポートしている。 (例：電話、外出等)地域に暮らす馴染みの友人と継続的な交流が出来るよう働きかけている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人等の来訪がある他、電話での交流を支援している。家族の協力を得ての外出や買い物、墓参り、法事に参加、葬儀に参列等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係を把握し、楽しく過ごせる場面作りをするなど利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	問い合わせが入ればその都度対応し、ご家族からは近況を伺っています。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人の言葉や表情などから暮らし方や希望を確認するようにしている。意思疎通が困難な方にはご家族などから情報を得るようにしている。	日々の会話の中やティータイム時、入浴中等での利用者の言動や表情をケース記録に記録して、カンファレンスで職員間で検討して、思いや意向の把握に取り組んでいる。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。利用者から、栗ご飯の要望があり、早速、栗ご飯を提供して喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、これまでのサービス利用先から、生活歴、経緯などを聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解したり、生活面や心理面の状態を把握し、出来ることに注目し、その利用者の全体を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞きプランに反映させるようにしている。また、職員会議などでスタッフ間で話し合いを持ち、現況に即したケアプランの作成に努めている。	計画作成担当者職員が中心となって、月1回のカンファレンスで利用者の思いや意向を検討し、主治医や看護師等の意見を参考に、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、利用者の状況や家族の要望等変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録をとり、職員間で情報の共有をしている。介護支援経過なども参考にしながら、本人の状況を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービス外のニーズに関して、職員の配置を多い時間帯を作り可能な限り対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一例として、一部のご利用者ではあるが、どんぐり村の花壇にて、昔からされている園芸を通じて、心身の力を発揮し、安全で豊かな生活をおくることが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の承諾を得て提携先の医療機関の定期的な往診、緊急時の往診を依頼している。また、今まで通院していた病院への受診を希望される場合は、医療的な情報を提示し適切に医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診を受けている他、希望者には、訪問歯科が往診している。その他の科(耳鼻科・整形外科・眼科・皮膚科等)は、家族に対応して頂き、緊急等は職員で対応している。夜間や休日の緊急時には、管理者や看護師、協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらゆる情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	非常勤の看護師がおり、介護職員からの情報、記録やデータからの情報をもとに、異常の早期発見に努め、かかりつけ医や専門医への相談を速やかに行っている。また、個々の利用者の観察の視点、処置方法などを適宜介護職員へ伝え一貫したケアが提供できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、かかりつけ医の紹介状に加え、施設での日常生活の状態や入院にいたった経緯などを医療機関へ口頭での情報提供している。また、退院の場合、医療機関の地域連携室などへ細かい現状を確認したり退院後に注意すべき点などの情報を提供してもらいスムーズに施設の生活に戻れるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関しては、状態の変化を見ながら、ご家族に現状を伝え、かかりつけ医と共に方針を確認している。できる限りご本人・ご家族の意向に沿えるよう、希望や要望を確認している。急変時には24時間体制でかかりつけ医の往診を受けれる体制をとっている。	契約時に看取りと重度化に関する指針に基づいて、事業所が対応できるケアについて家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医(24時間対応)と話し合い、看取りや医療機関への移設等も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練は実施できておらず、急変や事故発生時の対応は一部の職員に頼っている側面が大きい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施している。そのうち1回は地域の消防を連携して実施している。また災害時近所の方に協力していただくよう依頼している。	消防署の協力を得て(内1回は消防署の協力を得て)、火災訓練を年2回行い、火災と水害を想定した通報、避難、消火訓練、避難経路の確認を行っている。事業所独自に風水害での川の氾濫を想定して、1階の利用者を2階に避難させる訓練を実施している。近所の協力をお願いしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への言葉かけ時の注意点を事務所内に大きく掲示することで常に意識するようになり、さらに職員会議の際にも注意するよう話し合いを実施している。	研修で接遇、内部研修で認知症の理解、権利擁護、秘密保持等について学んでいる他、日頃からミーティング等で管理者から指導を受けて、人格を尊重した言葉使いや誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。個人情報の取扱いに留意し、守秘義務を順守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションをとる中で、気持ちや希望を引き出した後、コミュニケーションが困難な利用者にはイエスやノーで答えやすいような質問をすることで自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活の大まかな日程は決めさせていただいているが、個々の利用者の体調や気分などに合わせて、できる限りご本人のペースに沿って支援している		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	介助の必要な方は直接ご本人が着たい服を選んでいただけるよう一緒に衣装選びを実施している。希望があればご自身の選ばれた美容院や理容院に行っていただき、外出が困難な方には近所の美容院の出張サービスを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手伝いたいといただく利用者へ準備や片付けを手伝っていただいている。食事は宅配サービスの献立を使用しているが庭でとれた野菜や近所の方の差し入れなどもあり、宅配サービス以外のメニューも取り入れている。	食事は、3食とも宅配サービスを利用している。利用者はテーブル拭き、箸を並べる、配膳、下膳、お盆拭き、食器洗い等、出来る事を職員と一緒にしている。食事は利用者の状態に合わせて、刻み食・ミキサー食や食べやすいように形態の工夫をして提供している。行事食は事業所で手作りし、太巻き等も作り提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は1日の状態がすぐに把握できるよう表を利用しタイムリーな情報を職員で共有できるようにしている。体重も表を利用し変化を把握しやすくしたり、看護師が血液データの栄養状態と照らし合わせ、医師に相談し、必要であれば高カロリー栄養剤を処方してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	介助の必要な利用者には、介助にて口腔ケアを実施している、また、自己にて実施できる利用者には、声かけをすることで口腔ケアをしていただくよう努めている。必要時歯科の受診をし、必要なケアの指示を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を利用し、個々の利用者の排泄時間を把握し、声かけを実施している。軽度認知症の利用者には、立ち上がりなどの行動をされた際に声かけし、トイレでの排尿ができるように働きかけている。重度者も日中は必ずトイレでの排尿を促し、夜間は良眠を優先しおむつ対応にしている。	排泄チェック表を活用して排泄サイクルを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。パットやおむつを使用する場合は、その方に応じて適切な物を使用し、その都度見直しもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表を用いて、排便間隔を毎日チェックし、活動量、水分摂取量、食事摂取量など記録を確認し、原因を考え、予防に取り組む。また、極力下剤を使用せず、便を軟らかくする薬を処方してもらい、できるだけ自力で排便できるように働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には曜日を決めさせていただいている。ただ、体調の悪化や入浴の拒否などがあれば、清拭や足浴を実施したり、曜日を変えたりして極力ご本人が入りたいと思える日に声かけを行って気持ちよく入浴していただけるように努めている。	入浴は週2回が基本で、歌を歌ったり、おしゃべりをして、ゆったりと入浴出来るように支援している。入浴したくない人には無理強いせず、時間を変更したり、職員を替えたり、言葉かけを工夫する等して対応している。清拭や足浴、シャワー浴等、利用者個々の状態に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の就寝したいタイミングで寝ていただいている。昼寝などご本人が希望されれば、自室にて休んでいただいたり、自分で訴えることが難しい利用者の場合、その日の体調などを観察し、こちらから声かけし、希望されれば休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明はすぐに見えるようファイルにして事務所に置いている。副作用の注意が必要な薬を内服している時や内服薬が変更した場合などは連絡ノートに記載し職員間で情報を共有している。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	声かけし希望される利用者は、花壇や野菜づくり、皿洗い、洗濯たみなどに参加されている。カラオケに参加していただいたり、細かい作業が好きな方には塗り絵などを提供している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外に出たいといわれる場合は、できる限り対応し施設周辺の散歩に行っている。また遠方などの外出の希望がある場合は家族の方に協力していただき、外出をしている。	河川敷や近隣のお寺に四季の花々を見に行ったり、天気の良い日は、周辺を散歩したりしている。又、家族と外食・スーパーへの買い物・墓参り・季節の花を買いに行く・小学校の文化祭に出かける等外出している。庭先でプランターに花を植えたり、プチトマトを植え、水やり、収穫等して外気に触れている。近所で開かれている「長波カフェ」に行き、地域の人と触れ合っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には金銭の持ち込みはないが、希望されれば持ち込んでいただき、防犯面で事務所の金庫に預からせていただいている利用者もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	用事がある場合は、直接電話していただくこともある。ただご家族が頻回の電話を拒否される場合もあり、様子をみながら電話していただくこともある。また希望があれば携帯電話を持ち込んでいただきご家族と連絡をとっておられる利用者もいる。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、温湿度計を設置し、快適に過ごしていただけるように空調を調整している。日の強くあたる窓にはすだれやブラインドを設置したりすることで刺激の強い光を調節している。季節を感じられるような花を飾ったり、利用者が作成した作品を展示することで居心地のよさを提供している。	リビングは清潔で居心地の良い空間で、室内には利用者が作った季節の壁面飾り等の作品を掲示している。食卓テーブルと椅子、テレビ等をゆったりと配置し、利用者は新聞を見たり、洗濯物をたたんだり、テレビを見たりと思いついたように過ごしている。温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室に戻って一人で過ごされたり、居間はテレビをみたり比較的賑やかな空間であるが台所のテーブルは比較的静かなので新聞を読まれたり、音に敏感な利用者が静かに日向ぼっこをされたりして過ごしている。基本は居間に集合していることが多い。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に好きな動物の写真を飾られたり、ご家族の写真を飾られたりされている利用者もおられる。	筆筒・テレビ・机・家族写真・飾り物・シルバーカー・位牌等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族写真や自作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所が分からなくなってしまう利用者には、居室から出たら目に入るところにトイレの案内矢印をつけたり、自分の居室がわからなくなる利用者に対しては部屋の前に名前を大きく書いたものを張ったりしている。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム どんぐり村

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームどんぐり村

作成日 令和元年10月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	緊急時の対応について一部の職員が対応しており、訓練なども実施していない。	職員全員が標準的な対応できるようにする。	様々な緊急事態を想定し訓練を実施する。	1年
2	32	医療機関からの問い合わせに口頭での伝達であるため情報の詳細が伝わりにくい。	利用者の過去・現在の健康に関する情報を詳しく伝えることで、医療機関で適切な治療を受けていただく。	日々の健康状態を把握しやすい記録用紙の作成や医療機関への申し送り用紙の作成	3か月
3	38	基本的に生活の流れがあるため、その流れで生活されている利用者が多い	受動的な生活でなく能動的な生活ができる環境を提供できる	利用者の興味のあることや生活パターンなど日々の行動を観察し情報収集をする。	5年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。